



研修旅行の夏がきた！

今年度から、例年実施している7月末のベトナム研修と8月の東京みらいフロンティアツアーに加え、イギリス研修も7月の実施となりました。

7/16～22 イギリス研修旅行

創造科学科1期生（2年）7名とグローバルリサーチⅡ受講者（普通科2年）3名の計10名が、イギリスでの5泊7日の研修旅行に参加しました。ヨーク大学では、教育学部長の Ian Davies 教授からシティズンシップ教育プログラムを受講しました。生徒が取り組んでいる課題研究についても、アドバイスをいただき、議論することができました。



《生徒の感想》

初めての海外、初めてのイギリスだったが驚きの連続だった。日没が夜10時頃だったり、まわりに山も何もない牧草地が地平線まで広がっていたりと事前に聞いていたことも実際に体感してみると大きな衝撃を受けた。日本で当たり前の常識だと思っていたことが大きく異なり、これだけ違いがあれば考えることも慣習も違ってくるということを感じた。また、日本でもそうだが外国人と話したり外国の出来事について考えるとき、こちら側の常識だけで押し量ってはいけないということを改めて思った。何も今回のように実際に訪れることができずとも興味を抱いて調べることで、相手のことを考え敬意をもって接することができると思う。イギリスは歴史ある国だが、古い建物を今でも使っていたり、その街並みに調和するように新しい建物を建てたりと古い

ものを大切にしているのがうかがえた。グローバル化が進む中で悪い方向でなく自国に誇りを持ち、アイデンティティを持つことは必要だと思う。そういった意味でも外国に行って自分が日本人であるという自覚を抱くことができよかったです。そして何より英語圏の本場であるイギリスの雰囲気を感じ、現地の意見を聞き英語で話したことは、これから世界を視野に入れる必要のある現代社会を生きていくために大きな力になりえるだろうし、それを活かしていけるようにしたい。

7/23～28 ベトナム研修旅行

創造科学科1期生（2年）16名とグローバルリサーチⅡ受講者（普通科2年）15名の計31名が、ベトナムでの4泊6日の研



究旅行に参加しました。世界遺産ハロン湾における環境問題など、ベトナムの現状と課題を、フィールドワークを通して学びました。また、ホンガイ高校との交流会では、英語を母国語としない両者が、英語という言語を通じてコミュニケーションをとり、お互いへの理解、親交を深めることができました。

《生徒のレポートより》

ベトナムではまだ栄養不足が問題であることが分かった。保健所での講習会や健康補助食品 Ninfood などにより、改善されているが都市部と農村部での間の経済格差により、子供たちの食事に差があることが問題であると思う。保健所の数も予防接種なども無料で行われており、保健については発展途上国の中では比較的行き届いている。お母さんたちへの栄養教育に加え、衛生的な指導もできればよいのではないかと感じた。また、Ninfood をもっと農村部の家庭まで行き渡らせるために価格を下げる、配布する等対策をすべきだと思う。

レポートでは研究テーマに沿ったことについてまとめたので、研究の一部しかまとめていないがこのほかにも日本ではできない貴重な体験がたくさんで

きた。特に民家の豚を育てているところへフィールドワークに行った時の豚の鳴き声、近さ、迫力は衝撃的で忘れられない経験となった。ほかにも世界遺産のハロン湾クルーズでは壮大な自然を、洞窟探検では自然にできたとは思えない不思議な形をした鍾乳石を見られてどれも感動するものばかりであった。話を聞くだけではわからない、その土地独特の雰囲気、空気、文化に触れることができたのでとても実のある研修になったと思う。

8/1~3 東京みらいフロンティアツアー

創造科学科 2 期生
(1 年) 31 名とグ
ローバルリサーチ I
受講者 (普通科 1 年)
29 名の計 60 名



が、東京での 2 泊 3 日の研修旅行に参加しました。専門性の高い研究機関や企業を訪問し、課題研究のテーマや進路選択を考えるよいきっかけとなりました。また、東京武陽会 (東京近辺在住の本校 OB が集う会) との食事会や東京大学キャンパスツアーも、例年通りに実施されました。

《生徒のレポートより》

今回のツアーでは医療系に関する研修が多かった。どの研究も進んでいて、ほとんどの症状に対応できていけると思う。しかし、それは医療を提供する側の話であり、医療を提供される側の話ではない。例えば、薬の種類は豊富だと紹介したが果たして一般の人は理解できているだろうか。誤った薬の服用は薬物乱用にもなり、死に至る可能性もある。ここから、「知る」ということが課題であると思う。最近では、市販の薬を購入する人も増えているそうなので、わかりやすい説明書を付属させる。また、海外では国が運営する医療専門の図書館のようなものもあるそうなので日本でもやってみればよい。今回の研修では本当にたくさんのことを学べた。まず、生徒団長として参加できたことである。出発前から前に立って話す機会もあり、時には厳しい言葉も必要ということも分かった。そして、東京に着いてからは新たな発見だらけであった。研修先では、将来に役立つような知識やこれからの日本を見つめなおせるい

い機会であった。なかなか体験できない貴重な体験だったので、これきりで終わらせないようにしたい。

研修旅行に関する詳細は、兵庫高校のブログおよびホームページにポスターとしてまとめたものを掲載しておりますので、そちらにてご覧ください。



※兵庫高校ブログQRコード

フィールドワークの夏もきた!

◆創造科学科 2 期生 (1-8) の活動◆

社会科学分野探究活動フィールドワーク大特集!

探究活動の様子を、各班の時系列でまとめました。

3 班「神戸おさかな天国プロジェクト!!」

7/12 駒ヶ林漁業体験打ち合わせ

長田港において、「神戸おさかな天国プロジェクト!!」をテーマに研究している社会科学分野 3 班が、駒ヶ林浦漁業会・長



田区役所主催「親子で楽しめる! 漁業体験ツアー」の打ち合わせに参加しました。このイベントに協力する駒ヶ林浦水産研究会の尻池さん、宮前さん、加賀さんと長田区役所の長岡さん、小林さんからイベントの主旨や流れを聞き、簡単なリハーサルを行いました。

《生徒の感想》

今回のフィールドワークでは、駒ヶ林漁港に行き、漁業体験ツアーのボランティアの打ち合わせをし、いろいろな体験をさせていただきました。最初に高潮が来たときのための重い扉を見学させていただきました。この扉の存在は知らなかったもので、港の町を守るための工夫を知ることができて良かったです。体験する子どもたちにもためになると思いました。次に、船底の洗浄の仕方を見学させていただきました。思ったより重かったので、小さな子どもが体験するときは、注意しなければならないと思いました。そして、漁業体験ツアーの簡単な行程を教えていた

できました。子どもたちと一緒に漁港を学ぶと同時に、漁師さんや役所の方のお役にたてるように頑張りたいと思いました。

7/30 「駒ヶ林漁業体験」ボランティア

長田港において、駒ヶ林浦漁業会・長田区役所主催「親子で楽しめる！長田駒ヶ林漁業体験ツアー」にボランティアスタッフとして参加しました。駒ヶ林漁業会会長の前田勝彦氏による「長田の漁業のお話」のあと、防潮堤の開閉体験、漁船に乗って底曳き網漁の見学、いけす見学、競り体験を行いました。生徒は安全管理の補助や子どもが行う作業のサポートをしました。

《生徒の感想》

今回、漁業体験ツアーに参加して、私はまず驚きました。正直、あんなにも漁業に興味のある子どもがいるとは思っていなかったからです。私は研究活動の一環として参加しましたが、子どもたちの体験する様子を見て楽しそうでした。高压洗浄機で船底を洗うのも、安全対策などをして、子供が参加できればもっと楽しくなると思います。実際に船に乗って漁業体験をして、小さな子どもには漁がどんなものかを理解するのは難しいかもしれないけれど、船に乗ったこと自体はとても楽しそうでした。一番盛り上がったのはやはり競り体験だと思います。高校生の目から見ても楽しそうでした。競り体験をもう少しレベルアップしたら、中高生でも楽しめるようになるのではと思います。もっとたくさんの人に長田港の漁業を知ってもらえるように私たちが今回感じたことをうまく活用したいです。



営側として参加することも承諾を得ることができました。

《生徒の感想》

駒ヶ林浦漁業会集会所にて7月30日の漁業体験ツアーの振り返り会を行った。前半で開催報告をした後、後半で学科生の意見も取り入れ感想を話し合った。前日に3班で話し合った結果、防潮堤の開閉体験を取り除いたほうがいいという話になった。しかしそこには漁師さん含め漁業会の方々の努力を知ってほしい、という意図があった。また、序盤の前田会長による講義は子供達にとって長かったのでは、という意見もあり、次回のツアーでは子供と親を分離し別々の体験をさせる時間を取り入れたい。他にも、中高生や大人を取り入れた競り体験も前向きに検討していただけた。実際の資金で競りをするのではなく、円ではない単位のお金をつくったら競りも簡単なのではないか、という意見が出た。次回のツアーは1月27日を予定している。それに向けて9月末に会議を開き、学科生はそれまでにツアーで行える案を考えてくる、という話になった。漁師さん側の考えを理解した上で、子供達を楽しませる突飛なアイデアが求められる。



7班「進化させよう！鉄人化祭り」

7/19 アスタくにつか4番館 訪問

アスタくにつか4番館において、「進化させよう！鉄人化祭り」をテーマに研究している社会科学分野7班が、新長田まちづくり株式会社 社長 宍田正幸氏と KOBE 鉄人 PROJECT プロデューサー 岡田誠司氏からお話を伺いました。長田区役所の長岡さんと大前さんにも立ち会っていただきました。今回は、今年度末に開催される KOBE 鉄人 PROJECT 主催「第8回高校生鉄人化まつり」について、どのように改善していきたいかを提案しました。また、今後の活動についてのアドバイスをいただくことができました。



8/24 漁業体験ツアー振り返り会

長田区の駒ヶ林漁業会館において、「神戸おさかな天国プロジェクト！！」をテーマに研究している3班が、「親子で楽しめる！長田駒ヶ林漁業体験ツアー」振り返り会に参加しました。長田区役所まちづくり課の長岡さんと小林さんからアンケート結果を報告していただき、漁業者の方々に混じって生徒もコメントをしました。また、次回のイベントに生徒が運

《生徒の感想》

今日のフィールドワークで、**KOBE 鉄人 PROJECT** と新長田まちづくり株式会社の方とお話しをさせていただきました。話をしていく中で私たちが計画していたものは全て委員会が結成されてから動くことであると分かりましたが、委員会結成後の動きをスムーズにするために今できることを話を伺う中で考えることができました。委員会が結成するまでの時間、情報収集等を進めていきたいと思えます。

6 班「創り出そう花と緑にあふれる長田」

7/20 長田区役所 訪問

「創り出そう花と緑にあふれる長田」をテーマに研究している社会科学分野 6 班が、長田区役所を訪問しました。長田に若い方を呼び込むことを目的に、Instagram 向けの撮影スポットを、花と緑と関連させて作成することを考えています。その準備段階として、市民花壇コンクールへの参加、花壇のメンテナンスに詳しい方のヒアリング先を紹介していただくこと、同じような撮影スポットを検討している方の紹介などを打診しました。

《生徒の感想》

今回は長田区役所の方に市民花壇コンクールなどの区の取り組みの現状と、前々から設置を考えているインスタスポットについての意見を伺うことができました。聞きたいことは聞けたものの、途中話す内容がなくなってしまうことが何度かあり、自分たちの準備不足を痛感しました。これを反省点とし、区役所の方が資料を用意してくださるようにも次回から具体的な資料を作成していくことに決めました。次回のフィールドワークまでに企画書を各自作成し、お互いに理解を深めてより有意義な話し合いができるようにしたいと思います。

8/30 インスタスポット企画の提案

長田区役所において、設置を考えている Instagram 向けの撮影スポットについての企画書を提出し、それをもとに具体的なアクションを相談しまし

た。相合傘を花で作成することについては、作成した実物大の設計図をもとに話をすすめ、詳細の技術的な



部分を花屋さんと相談するために 2 店紹介いただきました。予算面も気がかりでしたが、あわせて花屋さんにかがうこととしました。作成したものを長田のカフェおよび鉄人化祭りで設置したい旨についても、カフェについては紹介いただき、後日相談することとしました。また、作成が早めに進めば、認知度を上げるために長田区主催の「ながたのキレイなところ」カレンダーの写真に応募することとしています。難しい場合でも、他の広報の手段も考えていきます。まずは、技術的課題をクリアして行くことが先決です。

《生徒の感想》

今回は長田区役所の方にインスタスポット作成に向けて、お花屋さんの紹介とインスタスポットのデザインや目的などについてお話を伺いました。今回は前回の反省を活かし、企画書を作ったので話し合いを円滑に進めることができました。また、作成しようと思っているインスタスポットの具体的な形や大きさも決めていたのでレベルの高い話し合いを行うことができました。次はお花屋さんフィールドワークに行かせていただく予定なので技術面や、金銭面について今日のような質の高い話し合いができるよう、準備していきたいです。

1 班「芸術と空き地でつながいを」

7/24 角野邸 訪問

長田区駒ヶ林地区の角野邸において、「芸術と空き地でつながいを」をテーマに研究している社会



科学分野 1 班が、NPO 法人芸法の小國陽祐氏にお話を伺いました。今回は、過去に先輩方が同じく創造基礎 B で空き地に作った芸術の水族館をリニューアルさせようという案を持ち掛け、実行のためのアドバイスを頂きました。その後空き地の地主の方に許

可を頂き、空き地整備の方策について話し合いました。次回はいよいよ実践活動に移る予定です。

7/31. 8/4~6 実践活動

空き地（元駒ヶ林水族園）の除草作業

長田区駒ヶ林地区の角野邸において、過去に先輩が同じく創造基礎Bの活動で空き地に芸術で作った水族館をリニューアルしようとの考えのもと、初めての実践活動に入りました。まずは雑草が生え、ゴミが捨てられて荒れ果てた空き地の清掃を行い、除草剤を撒きました。数日後、空き地の除草を行い、防草シートを引いて、空き地の除草作業が完了しました。炎天下の中でしたが、小國さんの呼びかけのもと、地域の方々が多く手伝いに来て下さり、共同作業を通して生徒と地域の方々との交流もありとても有意義な時間となりました。



《生徒の感想》

今日のフィールドワークでは、前回除草剤を撒いた駒ヶ林の空き地の草抜きをした。炎天下の中だったが、事前に小國さんが Facebook で呼びかけてくださったおかげで多くの人が集まって下さった。苦労した点はやはり肉体労働には限界があるということだ。私自身もすぐバテてしまった。真っ昼間はやはりしんどさもあると思うのでこういう活動を行う際の時間帯をきちんと配慮して考えれば良かったのかもしれない。作業はスムーズに進み、ゴミ袋は40袋以上あったように思う。安全に配慮しながら協力して作業を進めることができた。

8班「heartful language in 長田」

7/28 たかとりコミュニティセンター 訪問

たかとりコミュニティセンターにおいて、「heartful language in 長田」をテーマに研究をしている社会科学分野8班が、金千秋氏からお話を伺いました。長田に住む外国人が生活をするうえで、言語表記に困ることはないのか、あるとしたらどうい

う点なのかを詳しく説明していただきました。また、調査方法についての提案もしていただきました。

《生徒の感想》

今回のフィールドワークでは、今現在どのような所で多言語表記が求められてい



るのか、在住している外国人の方々はどのような場面で困っているのか、私達に今できることは何なのかなど今後活動していく上での非常に役立つお話をしていただきました。今日本に住んでおられる外国人の方々には2世や3世の人が多く、大体の人は日本語を理解しておられるそうなので、そのような中で私達にはどのようなことができるのか実際に外国人の方々に直接聞くのが一番良い方法だとアドバイスをいただきました。たかとりコミュニティセンター内の教会で毎週日曜日ミサが行われているそうなので、教会に連絡をしてミサに来られている外国人の方にお時間を頂き、直接どのような場面で困ったことがあるのかをやさしい日本語でインタビューさせていただくことが今後私達の活動における第一歩だと思います。また、多言語表記のみにこだわるのではなくピクトグラムや記号などを使って表記をすることもすごく大切だと教えていただいたので、そのことも考えながらより外国人の方々が日本で居心地良く、不自由のない環境の中で暮らせるように私達8班で活動していこうと思います。

8/20 聞き取り調査

たかとりコミュニティセンターにおいて、長田に住むベトナムの方への聞き取り調査を行いました。最初に、教会でのミサに参列して、参加されたベトナム人16名からいろいろなお話を伺いました。20代前半の学生や地域で仕事をされている方も来られ、実際に日本での生活で困っていること、ベトナムと日本との違いなど、生徒たちからの質問に、日本語で答えていただきました。今後、ベトナム人の目線でより住みやすい環境へ変化させていけるよう、研究していく予定です。



《生徒の感想》

いままで私たちの活動は「長田区の外国人がより住みやすい環境を作る」ための活動でした。しかし日本で働くベトナム人は大して困ってはいないそうです。着いてから1～2週間の間は電車やバスに困ることはあっても、ベトナム人や日本人の友人や先輩と行動するうちに慣れたりするため日常生活で困る事はあまりなく、携帯の契約など複雑なものは彼らに着いてきてもらう事で解決することも多いとのことでした。しかし、銀行での送金や市役所での手続きは文書が長く読みづらいため改善してほしいという声がありました（セブン銀行は言語翻訳済み）。また日本語自体が分かりにくい事はよくあるそうです。漢字の読み方がわからないが字でニュアンスは分かる時があったりするため、ローマ字だとかえってわからないなどアジア圏だからこそその意見もありました。仕事の上で分かりづらい日本語で説明されたのに「はい」と言ってしまったためにわからないままの時も多いと言います。私はここから、①表記は漢字+ひらがなに変える。②銀行、市役所への分かりやすい日本語での文書、システム作成への提言。が出来るのではないかと思いました。

2班「観る・魅る・見つける！」

長田神社前商店街 PR プロジェクト」

8/8 長田神社前商店街 PR プロジェクト

本校学科準備室において、「観る・魅る・見つける！長田神社前商店街 PR プロジェクト」をテーマに研究をしている社会科学分野2班が、長田区のまちづくりをサポートしているまちづくり株式会社コー・プランの吉川健一郎氏からお話を伺いました。

《生徒の感想》

吉川さんから、気仙沼と長田を比較した時の長田の良さを話してもらうことで、長田神社前商店街の課題がより明確にわかったと思います。長田神社前商店街には、商店街にまだ足を運んでいない潜在的なお客さんがいるので、その方々にどうやって興味を持ってもらうか、買い物に来てもらうかが重要な

のだとわかりました。そのためには、スーパーと商店街の違いなどについて、私たちの視点から商店街内のお店に対して意見



を言うことで商店街の人にとって刺激となるのではないかと考えました。また、その調査を行うにはきちんとした評価基準を確定すべきだとも考えました。今後も商店街の方々とコミュニケーションをとっていき、長田神社前商店街をよりよくする活動を続けていきたいと思います。

4班「Happy Life Happy 長田 for シニア」

8/18・28 駒ヶ林まちあるき

地下鉄駒ヶ林駅周辺において、「Happy Life Happy 長田 for シニア」をテーマに研究している社会科学分野4班が、シニアにとって住みよいポイントを調べるため、実地調査を行いました。今後も実地調査を続け、駒ヶ林がシニアにとって住みよいまちであることを調べていきます。



《生徒の感想》

今回のフィールドワークでは、駒ヶ林周辺のモニュメントを探しに行った。探してみても思ったのは、やはり鉄人28号やシュープラザの赤いハイヒールのオブジェが目につくと思った。私達がフィールドワークの中心としている大正筋商店街にも三国志のキャラクターの像などがあったが、隅の方にあり、あまり目にはつかないと感じた。また今回、モニュメントを探すだけでなく、駒ヶ林駅から新長田駅までつながっている地下道で鰻屋さんの店の方に話を伺った。その方から地域のメリット・デメリットについて教えて頂いた。メリットとしては、国道2号線を渡るのが怖いというお年寄りにとって地下道があるため便利ということやお店が多いため買い忘れてもすぐに買いに行けるといったことだった。デメリットとしては、地下道の勾配が大変などの小さい不便なところが多いといったことだった。もちろんメリットばかりではなくデメリットもあるが、私達が

対象としている50代以上のシニアの方にとっての街の魅力を今後のフィールドワークを通してもっと見つけていきたいと思う。また、フィールドワークで街の人が私達に街の魅力であったり現況について教えてくださるということに感謝の気持ちを忘れずにこれからもこの活動をしていきたいと思う。

5班「長田とお弁当にIRODORIを」

8/30 おかずふぁくとりー 訪問

長田商店街において、「長田とお弁当にIRODORIを」をテーマに研究をしている社会科学分野5班が、おかずふぁくとりー店長 村上季実子氏と今後の方針について相談しました。長田の食材を用いてお弁当をつくることから、方針を変更して一品にしぼり、自分たちでつくってみることを相談しました。長田と言えば、「ぼっかけ」「油かす」「はもの皮のにごり」が候補に挙がり、つくりやすさを考慮して「ぼっかけ」「油かす」をもちいるメニューを班で再考することとなりました。「ぼっかけ」「油かす」のルーツなどについてもお話いただいたうえ、それらについて詳しいお肉屋さんも紹介いただき、「笹山精肉店」をその後訪問し、解体前の牛肉を前に「ぼっかけ」の材料となるすじ肉のことや「油かす」についての話を伺いました。まずはメニューを相談して候補を挙げて、今後試作していくこととしました。



《生徒の感想》

今まで、長田で有名な食べ物として、ぼっかけが挙がっていたが、今回のフィールドワークの話の中で油かすという食べ物新たにでてきた。油かすは色々な食べ物に応用できるため、案に加えることにした。料理は自分達でも作れるもので、食べ歩きのできるものが良いだろう。おかずふぁくとりーに作った料理を店頭において貰えないかと頼んだところ、了解を得ることが出来たため、最終目標の「売る」ところまでしっかり進めていきたい。

グローバルリサーチ活動報告



◆グローバルリサーチⅠ(普通科1年)◆

7/11「新聞ワーク」

本校会議室において、グローバルリサーチⅠ受講生(普通科1年)33名を対象に授業を行いました。



今回の授業では、生徒たちが事前に国際問題に関する新聞記事を選び、選んだ記事をもとにグループ内で発表しました。発表は記事についての紹介5分、質疑応答3分で行いました。

《生徒の感想》

本日の授業で(発表された新聞記事から)、外国にもユーチューバーがいることを知り、その人たちが雇用することで日本に経済効果をもたらされていることが分かった。また、ベネズエラでは、政策により貧乏な人のために商品を安くしたが、お店が経営できなくなり、結果的に経済が悪くなっていった負の連鎖が起こっていることを初めて知った。日本に住んでいる私たちがどれだけ食料や環境にめぐまれているか改めて感じた。私の発表内容と少し似ていた、G20でのパリ協定については、まず、私自身がパリ協定のことを詳しく知らなかったため、うまく掘り下げることができなかった。質問や自分の意見を言うためにも、日頃から世界のニュースに触れておく必要があると思った。私が発表したあとに、グループの子が「新聞に載っていること以外の知識や背景を入れながら話してくれて、わかりやすかった。」と言ってもらえて嬉しかった。今後、人に話すときにもその話題だけではなく周りの出来事についても話していきたいと思った。これから様々なことにアンテナをはって、興味のあることを増やしておきたい。

◆グローバルリサーチⅡ(普通科2年)◆

8/22・23「オープンハイスクール ポスター発表」

本校コモンホールにおいて、グローバルリサーチⅡ受講者(普通科2年)の有志が、オープンハイスクールに参加した保護者と引率者を対象に、自身が行っている課題研究についてのポスター発表を行いました。課題研究に関するだけでなく、学校生活やグローバルリサーチ、ベトナム研修に関する質問に答える場面もありました。



グローバルリサーチも！

探究活動フィールドワーク特集！

7/8 「森から世界を変える

ソーシャルビジネスアワード」参加



JICA 関西において行われた講演「森から世界を変えるソーシャルビジネスアワード」に、「ソーシャルビジネス」をテーマに研究をしている8班の生徒2名が、6月10日に引き続き、参加しました。当日抽選で決まったグループで、森林に関するソーシャルビジネスの提案を考え、その内容を競うという内容です。ソーシャルビジネスについて詳細を学び、約2時間話し合いを行い、提案を考えプレゼンテーションを実施しました。本校生徒が参加したグループが入賞しました。

7/20 ベトナム人コミュニティについて学ぶ

神戸ベトナム人会において、「難民」をテーマに研究をしている7班の生徒3名が、会長のオアンさんに、難民として来日されてから今までどのような経験をされたのか、現在ベトナム人コミュニティでどのような内容に取り組んでいるのかを聞きました。ベトナム難民の方が抱えている課題や、日本人のかかわりなどがわかりました。今後は、実際に取り

組まれている現場にも訪問し、研究を進めていきます。

《生徒の感想》

オアンさんの話を聞いて難民の方の日本で暮らすことの大変さを感じることができた。日本語を学ぶことが難しいのはもちろん、日本語の学習が不十分で働き口がコミュニケーションを要しない靴会社などの製造業に多いことは驚きだった。またそれによって生じる親子間の言語の違いによるコミュニケーションの困難は大きな問題であると思った。いまだ日本人の中には難民の方に差別や偏見を持っている人がおり、それが難民が社会に馴染むための一番の妨げになっていると思う。そのような人に難民のことを知ってもらい、理解を深めてもらうことで、共存していけるのではないかなと思う。



8/26 アジア友の会 訪問

アジア協会アジア友の会(JAFS)事務所において、「フィリピンにおける教育」をテーマに研究をしている6班の生徒2名が、同会海外プロジェクト担当の横山浩平氏からお話を伺いました。昨年度もグローバルリサーチの生徒を受け入れていただきましたが、今回は先輩の研究を引き継いで進めています。生徒の研究報告および質問に対して横山氏は丁寧に指導をしてくださいました。

《生徒の感想》

今日の訪問で、フィリピンでの教育について深く知ることができた。フィールドワークに行けず、浅はかだった内容を詳しく知れてよかったと思う。自分たちが今後調べていくべきことは何か明確になった。現地の人の目線で支援をしているからこそわかる事情や、意見などを伺って、自分たちがこれまでは支援者の目線でしか考えていないことに気づいた。印象に残ったのは、たくさんあるが、大人の意識が、子供の意識を向けさせるのだということだ。他の途上国も同じように、指導者の所得や



意識の低下、親の教育の必要性の認識の欠如が起きていると思うので、そのようなところをどう解決していくか、考えていきたいと思った。改めて発展途上国支援の難しさを感じた時間となった。今回の内容を通してもう一度自分たちの研究を見直し、さらに深めたい。

8/28 出張講義「高校生ビジネスグランプリ」

本校において、「企業の海外戦略」をテーマに研究をしている8班と9班の生徒6名が、日本政策金融公庫の古川隆三氏より、ビジネスグランプリについての出張講義を実施していただきました。ビジネスアイデアやビジネスプランの考え方を学び、これまで、開発途上国や日本国内におけるビジネスの可能性を探究してきた2つの班にとって、実現可能性を高める良い学びとなりました。

《生徒の感想》

今までどうやったら利益に繋がれるのかについて悩んでいたのですが、自分たちが考えている都市部への日本の医薬品の浸透が5年以内に達成できればビジネスに繋げることができるという道が拓けたように思います。他にもコンテストの去年受賞したプレゼンを聞いたことで自分たちがパワーポイントを使ってプレゼンするときの参考になることを感じる事ができました。ビジネスの成り立ちや、顧客のニーズなどについて深く考えられたので有意義な時間になりました。まだまだビジネスプランとして不完全な状態の研究ですが、糸口を少し掴めたような気がしたのでこれから企業にアプローチするなどして深めていきたいと思えます。



8/28 ミャンマーの農村部について学ぶ

新長田の丸五市場内にあるミャンマー料理店において、「企業の海外戦略」をテーマに研究をしている9班の生徒3名が、ミャンマーの農村部における医療の現状や使われている薬、その他、ミャンマーの習慣や文化について、店主の方にインタビューを行

いました。ミャンマーにおけるビジネスの可能性について考える大きなヒントとなりました。

《生徒の感想》

最初にミャンマー料理を体験しました。料理はサラダはナッツが入っていたり、カレーも全然ルーが日本のものとは違っていたのですが、とても食べやすく、美味しかったです。そして、モナイさんの故郷である、ミャンマーの中でも田舎の村についてたくさんお話が聞けました。私達が特に知りたかった、ミャンマーで需要のある薬や、日本の商品についてのイメージなどを知ることができて、研究にも大いに役立ちそうです。具体的な村を対象として研究を進めることができたなら、私たちの考えるビジネスモデルにもかなり現実性が出てくると思います。特に印象に残ったことは、ミャンマー農村部では塩やバナナの皮、薬草などを用いて治療を行っていたことで、日本の薬は全く無く、中国やインドの薬は全然効かないということです。でも日本に対しての信頼は厚く、また頭痛薬や腹痛薬などのニーズが高いということも確認できたので、より一層置き薬ビジネスが成功する可能性があるんじゃないかと思えて嬉しかったです。しかしインフラ(交通)に課題があり、雨季には船を使わなければいけないということも分かったので、なんとかその課題を克服する方法を探して頂きたいと思えます。コンテストに向け、頑張ろうという気持ちが大きくなった一日でした。



他にも様々な活動に参加しました！

1/11 「ワークショップ 難民 2017」参加

神戸勤労会館において、グローバルリサーチⅡ受講生(2年)の3名と未来創造コース2期生(3年)の1名が、神戸YMCA主催のワークショップに参加しました。今回は「難民と暮らす」というテーマで日本のアパートにおけるトラブルや、仮想国における日本人とのトラブルなどについて、実際の話に基づいた内容でのロールプレイが行われました。



《生徒の感想》

今回、難民ワークショップに参加して、多文化共生の難しさを感じた。日本人には日本人の価値観があり、外国人には外国人の価値観がある。その中でお互いが妥協点を見つけて、仲良くしていく。簡単そうにみえてなかなか難しいのだなと感じた。今回行った「ベトナム料理の匂いの問題」についてのシミュレーションでも、「譲り合ったらいいのに」と思っていたが、想像以上にお互いが妥協点を見出すことは難しかった。ただシミュレーションを行う中で、日本人が外国からやってくる人に対して偏見をもち、差別することはおかしいことだなと感じた。今回のワークショップを参考にこれからの研究をすすめていきたい。

7/15

「3rd Science Conference in Hyogo」見学

神戸大学先端融合研究環統合研究拠点 コンベンションホールおよび理化学研究所計算科学研究機構において、3rd Science Conference in Hyogo が開催され、創造科学科2期生（1年）の3名が見学者として参加しました。兵庫「咲いテク」事業が主催するこのイベントは、高校生が取り組んだ科学技術分野の研究を英語で発表することを目的としており、今回で3回目の実施となります。本校生徒は、来年度の発表に参加することを見据え、他校の生徒が行った発表を聴講し、英語での質疑応答にも臆することなく参加しました。



《生徒の感想》

私が「英語による科学のプレゼンテーション」を見学しようと思ったのは、将来像として世界中の人びとと意見の出しあえる科学者に憧れているからです。プログラムは／特別講義→プレゼンテーション→サイエンスカフェ／という順で、午前から午後まで計6時間ほどお邪魔させていただき、とても楽しませていただきました。その中でも特に印象に残ったのは、プレゼンテーションです。計七つのプレゼンを選択し、拝見しました。各班でポスターやスライドに工夫がしてあって、アイコンタクトやハンドサインを

用いたレベルの高いスピーチでした。私は5つのプレゼンに質問することが出来ました。中には難しい質問で相手を困らせてしまったこともありましたが、普段英語だけを話す機会はないので新鮮な気持ちになれました。周りの生徒達も英語で会話していて、室内だけが海外のようでした。閉会の言葉でとても感動するスピーチに出逢うことが出来ました。「今は緊張するかも知れないが勉強が心を強くしてくれる。」「私がヨボヨボになった後でも日本は大丈夫だ。貴方達のような人がいるから。」「また来年、ここで会えることを期待しているよ。」優しく力強い口調で一語一語発せられた言葉に、私は未来への希望と意思が湧いてきました。英語を話せば沢山の友達と会話することができます。新しく単語を覚えれば、新しい表現をすることができます。勉強とは可能性を広げることであると、実際に話すことで実感できるのだと知りました。私ももっと力を蓄え、来年、ここに戻ってきたいと思いました。将来を想像するための貴重な機会になりました。

7/22・23 ワンワールドフェスティバル

for Youth 第1回実行委員会

大阪 YMCA において、グローバルリサーチⅡ受講生（2年）の2名が、「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2017」の第1回実行委員会に参加しました。今回は他校の実行委員との顔合わせや前回の実行委員からの引き継ぎなどが行われました。また、今回のテーマは「知ろうぜ世界！動かせ未来！」に決まりました。



《生徒の感想》

吉椿さんの講演では、ボランティアの心構えを教えてもらった。やはり、当事者の納得のもと支援をすることが大切だそう。ボランティアで雪かきをしに行ったとき、一緒にしたのではなく、してあげたそう。当事者は元気がなさそうに見えたらしい。その人にとって雪かきは、運動の場であり、近所の人とコミュニケーションをとる機会だったそう。テラ・ルネッサンスの講演とつながった気がした。一方的にすることはよくない。自分たちのグローバルリサーチの研究でも

大事にしていきたい考えだと思った。栗田さんの講演では、世界には教育を受けられない子供たちが多くいることを改めて感じた。誘拐され、カラシニコフ銃を持たされ、人殺しを子供にさせていることを本当につらいことだと思った。テラ・ルネッサンスの活動について詳しく知ったのはこれが初めてだった。地雷除去作業や、教育支援にかかわっていて、それを間接的にしているのは面白いと思った。現地の人たちが自立について考え、納得することが大切で、自分たちはよそ者、という考え方だそうだ。確かに現地の人だからこそわかることがあるのだろうと感じた。スローガン、プログラムについての意見交換でも他校の生徒さんといつもと変わらず意見交換できたことがよかったと思った。学校によってそれぞれやりたいことが違っていると感じたので、よかったと思う。今後の打ち合わせも頑張っていきたい。

7/28~29

「高校生国際交流の集い2017」参加

関西学院大学において、創造科学科2期生(1年)の5名とグローバルリサーチI受講生(1年)の4名が、1泊2日で開催された高校生国際交流の集いに参加しました。内容は関西学院大学の学生と日本の高校生と留学生とが、一緒にレクリエーションを楽しんだり、社会課題についてグループに分かれてディスカッションを行ったりしました。最後には社会課題の解決策を英語で発表しました。



《生徒の感想》

今回の高校生国際交流は、「楽しかった」の一言に尽きます。最初はお互い人見知りしていた相手も最後にはハグで別れを惜しむような一泊二日でした。ディスカッションがメインの交流でしたが、それを通して学んだことは「発言しなければ意味がなくなる」ということでした。これはもちろん日本語での

ディスカッションでも同じことですが、英語に自信がない私にとってその重みは段違いです。確かに拙い英語ではうまく伝わらず、もどかしい思いをすることもありました。しかし、それでも何か言えば相手もそれを理解しようとしてくれます。それはきつと言語に関わらずディスカッションの本質なのだと身をもって感じる事が出来ました。また、私は留学生と仲良く出来るかなとドキドキしながら今回のキャンプに参加したのですが、それはすこし違うのだなとキャンプが終わった今では思います。なぜなら、自由時間に遊んで、くだらないことを話して笑って、挨拶をする中に「留学生」と「日本人」という区別は全くと言って良いほど無かったからです。外国人だと身構えることは(もちろん言語や文化の違いで意思疎通が難しくなる場合もありますが)本当は必要ないのだと思うことが出来ました。私も「日本の高校生」としてではなく、ただの「私」として、楽しい友達ができたことがとても嬉しいです。今回のキャンプは本当に楽しくて、有意義な体験だったと思います。来年度も是非参加したいと思いました!ありがとうございました!

8/8~10

大阪大学「Future Global Leaders Camp」参加

大阪大学豊中キャンパスにおいて、2泊3日の日程で実施された FGLC (Future Global Leaders Camp) にグローバルリサーチI受講生(1年)の1名が参加しました。グローバルな社会課題について、全国から集まった高校生同士で探究活動を行いました。本校生が所属したグループは「核兵器の廃絶」をテーマにグループ研究を行い、最終日に成果を発表しました。8グループ中3位に入り表彰を受けました。



《生徒の感想》

今回大阪大学の FGLC の活動に参加して特に良かったと思ったことが2つある。1つは、論文の正しい書き方について詳しくわかったことだ。自分の意見をただ述べていくのではなく、段々と順を追って自分の意見が正しいと言うことを証明しなければならないのだとわかった。そうして考えてみると、

自分が事前課題として送った論文は論文と呼べるものではなかったと思う。今書けばより良いものができると思う反面、細かく詳しく絞ってしなければならないので、うまく書けないかもしれない。いずれにしても今回学んだことは、今後のグローバルリサーチの活動だけでなく、大学のプレゼンの発表や、社会に出た後の事に役立っていくだろう。自分が論文を書くときに、細かくテーマを絞りながら、主題、トピック、仮説を立てていきたい。2つ目に常識という言葉についてだ。私たちは、核兵器の廃絶というテーマでしていたのだが、そもそも核兵器を廃絶する必要性はあるのかと投げかけられた。他のグループでも今まで私が常識と思っていることを投げかけられていた。そのことについて、私は常識ということは、今現在の国際社会において、存在しないのかもしれないと思った。住むところも文化も違う人々の考えが完璧に一致している事例はあるのだろうか。よく考えてみれば、ないのかもしれないと思った。私たちが考えていることは、地球の反対側にいる人からしてみたら、非常識なのかもしれない。そうしてみると、論文を始めていく時に、「こういうことは常識ですよ、だからしなきゃならないんです。」という考えは間違っているのだろう。特に、国際社会という、正解がなく、不特定多数の人を対象にする論文についてはなおさらそうなのであろう。今回の FGLC の活動は、今後の活動だけではなく、生涯にわたって役に立つヒントが様々なところに散りばめられていた。これからますます発展していくであろう国際社会で生きていく上ではこの上なく重要であるだろう。それだけでなく、世界には解決していかなければならない問題が山積みになっていることがわかった。自分が少しでもその解決に関わればいいと思う。また、課題研究のテーマについて、大まかなところは決まってきたと思うので、細かく主題を絞っていきたい。

8/19「模擬国連会議灘高練習会」参加

灘高校視聴覚室において、創造科学科1期生（2年）の1名が、「模擬国連会議灘高練習会」に参加しました。「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」を議題とし、灘高校、西大和高校、神大附属高校か

ら参加した19名で練習を行いました。

《生徒の感想》

今回の練習会が初めての模擬国連の体験だった



が、振り返って出来たことが1つだけある。各場面に自分がやるべきことを分析できたことだ。残り時間と今の議場の流れを把握し、自分は今一体何をすべきなのか、どのリーダーについて行くべきなのかを考えることができた。終了後には、全日本高校模擬国連大会で優勝しニューヨークに派遣された灘高校の先輩から詳しくレビューをして頂いた。その中で特に印象に残ったのが次のことだ。①自分の国について他の大使が何かアドバイスをくれることは絶対にあること、②大使の集中力が切れたら担当国が議論を放棄したのと一緒だということ、③大切なのは他国や議場全体にどれだけの影響を与えられるかということだ。今回の練習会では、私は「米国の大使」として参加している自覚がなかったと思う。担当国だった米国は3億人以上の人口がいる。その人々の意思を背負って来ているということ把握できてなかったのも、先述のレビューはとても衝撃を受けた。また私はかなり控えめに参加してしまい、正直いってもいなくても議論に大した変化は生まれなかっただろう。もっと自分が周りに影響を与えていくような意識を持って議論に加わりきたい。今回の練習会は会議自体も、その後のレビューも非常に役に立った。主催して頂いた灘高校の先生と生徒に感謝したい。